

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度岐阜県立関有知高等学校 学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和5年2月1日（水） 10:00～12:00
- 3 開催場所 関有知高等学校 第2校舎 会議室
- 4 参加者 協議会委員 丹羽 章 各務原市教育委員会（特別支援教育政策官）
平田 昌隆 下有知中学校 校長 ※ご欠席
多田 幸泰 関青年会議所 理事長
平田 尚 しもうちふれあいまちづくり協議会 委員
武田 由美子 特別養護老人ホーム ハートフル 総務主任
今井 典子 下有知保育園 主任保育士
北村 隆幸 せき・まちづくりNPOふうめらん 代表理事
杉戸 美月 関市役所市民協働課 書記
下平 美和子 関有知高等学校PTA 庶務 ※ご欠席

学校側 杉江 祐子 校長
堀 卓也 教頭
中藪 淳 事務長
大野 広行 総務部長
名和 憲一 教務主任
長尾 真由里 生徒指導主事
辻 祥平 進路指導主事
吉野 典子 生活福祉（デザイン）科主任
平子 直明 特活係長
横山 玄斗 記録

5 会議の概要（協議事項）

（1）学校評価アンケートの分析及び学校全体としての自己評価

- ・全体的に保護者の回答は「分からない」が多かった。情報発信への工夫が必要。
- ・保護者として「すぐメール」の活用は有難いという意見が多い。
- ・HPを用いた情報発信は重要・必要であり、さらに改良していく必要がある。
- ・学年通信の有効活用という点では、保護者まで渡っていないのではないかと心配される場合がある。
- ・身だしなみについては、生徒は教員からきちんと指導を受けているという感覚を持ってい

るが、保護者の認識は生徒とズレがある。

- ・ 関有知マルシェの実施により地域や地域の方との関わりが強くなったという実感がある。
- ・ 関有知ジモト大学や関有知マルシェについて、教員や講師の満足感と生徒の満足感に明確な差がある。教員や外部講師の中には、生徒にもっと上のレベルまで求めてもよいのではないかという印象を持っている人が複数いる。次年度以降の取組について、さらに改善していくことが必要である。

(2) 各分掌からの報告、自己評価、取組及び成果と課題、次年度への展望

①総務部

- ・ 関有知マルシェの実施について、保護者の認知度が低かった。周知の時期を考える必要がある。
- ・ 来年度、関有知マルシェは実施しない。関有知ジモト大学と関有知マルシェのスムーズな連携ができるように仕組みづくりを行い、生徒と保護者に浸透するように努める。

②教務部

- ・ 新教育課程の学年進行で実施。おおむね順調に実施できている。成果は現1年生が卒業する時に見えてくるのではないか。
- ・ ICT機器の活用について、本校の生徒の実情に応じた活用を行ってきた。
- ・ ホームページの大幅刷新。業務支援員による、スマートフォン対応のホームページへアップデート中。

③生徒指導部

- ・ 生活指導について、生徒の認識と保護者の認識に差がある。生徒が必要を感じてくれるように粘り強く指導したい。
- ・ 感染症対策をしながら、3年ぶりの文化祭を実施した。試行錯誤の中、無事実施できた。
- ・ MSリーダーズ活動では「あいさつ啓発運動」や、「交通安全啓発活動」を実施。
- ・ 部活動ではライフル射撃部が全国大会へ出場。他にもサッカー部の県大会出場、男子バレーボール部の新人戦ベスト16など、実績が上がり活発になってきた。
- ・ コロナ禍のため、個人の安全を担保した生活が大事だが、集団で生活していくための規範意識をどのように身に付けさせるかが課題。
- ・ 支援や配慮を要する生徒が増加している。教育相談、アンケートの実施により、関係機関との連携を図りながら生徒の支援を行う必要がある。

④進路指導部

- ・ 1年生はガイダンスや企業見学・大学見学を実施。2年生では、インターンシップや関有知マルシェ等による外部での体験学習を実施。3年生では、進路決定に向けてのガイダンスや面接指導等、具体的な指導を実施。来年度は、企業の方による面接指導の実施を希望。1月には、3年生から下級生への進路報告会を実施した。
- ・ 現3年生は、コロナ禍のため、進路を決定していく上での参考になる行事が少なかった学年である。そのためか、教員から見た生徒の適性と本人の希望とのズレが生じ、思うような進路結果にならなかった生徒もいる。ただ、今年はここ数年の中では、学校内外での進路決定に向けた経験が最もできた年であり、生徒は充実感を抱いている。

- ・次年度は進路行事の日程見直しを図りたい。
例) インターンシップの実施時期の変更 8月から2月へ変更予定。
- ・ホームページによる積極的な進路行事の発信が課題。

⑤家庭教育部

- ・奉仕の精神の大切さや、ボランティア活動の機会提供について保護者への理解不足、周知が得られていない現状。普通科とも連携して取組みたい。
- ・1月に課題研究発表会の実施。「自分たちの手でつくりあげた。」という自己肯定感が持てるようにする工夫を考える。
- ・校内及び学校周辺で行うことができるボランティア活動を実施し、状況に応じて周辺施設でのボランティアを実施できるよう準備していく。

(3) 質疑応答・委員からの意見

- 意見1：関有知マルシェのような普段の授業では経験できないような取組については、実施する上での課題もあると思うが、継続してほしい。
- 意見2：関有知マルシェは商店街の方からも好評だった。関有知高校の生徒に対する見方が変わったという地域の方の声を聞いた。
- 意見3：関有知マルシェの実施については、教員と外部講師の達成感・充実感と、生徒の達成感・充実感に差がある。その理由を分析し、改善方法を検討してほしい。
- 意見4：校務分掌ごとでの担当があると思うが、分掌間で共同・協働するという意識で学校行事を行うと、さらによいものになるのではないかと。
- 意見5：コロナ禍の緩和に伴い保育園との連携を大事にしたい。家庭教育部のみでなく、部活動等（過去には吹奏楽部と連携）との連携も大歓迎である。
- 意見6：部活動の実績などにもすばらしいものがある。関有知高校の広報を積極的に行い、関有知高校の生徒が頑張っていることを地域に伝えるとともに、関有知高校の生徒に協力してもらい、地域の活性化を図りたい。
- 意見7：登校意欲の低下を解消するための取組を考えるとよい。関有知マルシェや企業と連携した活動は、自分から動こうとする意欲を高める点で有効である。
- 意見8：中学生の進路希望調査の結果を見ると、関有知高校に対しての中学生からの評価は非常に高いと言える。職員の皆さんは自信を持って指導にあたってほしい。

6 会議のまとめ

第3回運営協議会では、学校全体としての取組及び、各分掌の取組についての成果と課題、そして来年度に向けた方針等について報告し、意見をいただいた。本年度の取組を評価する意見を頂くとともに、次年度への期待の声、改善案を頂くことができた。意見をいただいた「ボランティア精神の育成」については、学校をあげた取組を実施し、ボランティア精神の涵養に励みたい。新型コロナウイルスを取り巻く状況が変化することが予想される来年度に向けて、今後も地域と連携した教育活動を積極的に行い、よき地域社会人の育成に努めたい。